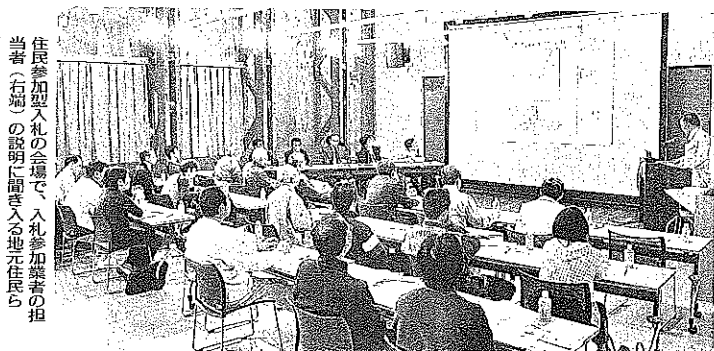


住民参加入札 手応え十分



住民参加入札の会場で、入札参加業者の担当者(右端)の説明に聞き入る地元住民ら

公共工事の入札に地元住民の意見を反映させる「住民参加型入札」に、国土交通省小樽開発建設部が取り組んでいる。全国2例目となる入札が蘭越町で4日に行われ、住民20人が参加した。

この入札は、小樽開建が試験的に導入しているもので、透明性や公平性を確保し、住民の意見を取り入れる手法として注目されている。一昨年6月、喜茂別町の国道工事で全国初の住民参加型入札が行われ、今回が2回目となる。

小樽開建2例目 蘭越の国道工事

この業者に任せたい」という基準で住民に投票してもらった。得票結果として、国道の事前評価との総合点で、落札業者を決める。

今回、住民参加型入札が行われたのは、国道5号の約200区間で、カーブを緩くして右折レーンを作る工事。説明会では、国交省の事前評価をパスした小樽、倶知安、黒松内の建設会社3社が、

「騒音の小さい重機を選びます」「小学生的登校時間は作業を避けたい」「住民苦情を受けると現場に開設します」といった工夫点をPR。住民からは「冬場の除雪はどうするのか」「下校時間の対策は」といった質問が出され、熱心な議論が交わされた。

投票の結果、完成時の予想イメージ図などを使って工事概要をわかりやすく説明し、児童の登下校対策にも配慮した黒松内の業者が、20票中12票を集めて1位に。同社は、入札金額が2番目に高く、国交省の事前評価でも2位だったが、住民評価を加味した総合結果で1位に浮上し、落札が内定した。10日に正式決定する。

3業者に 質問多数

「騒音の小さい重機を選びます」「小学生的登校時間は作業を避けたい」「住民苦情を受けると現場に開設します」といった工夫点をPR。住民からは「冬場の除雪はどうするのか」「下校時間の対策は」といった質問が出され、熱心な議論が交わされた。

投票に参加した自営業男性(55)は、「参加業者は住民の目線でよく考えてくれた」と満足そう。会社員男性(48)は「住民の意見を公共工事に反映できると実感した」と話した。

住民参加型入札を考案した高野伸栄・北大准教授は、入札終了後の講評で、「説明会の質疑がとても充実していた。要点をついた質問が数多く出されたのを見て、住民は関心が高く、よく考えていると実感した。さらに改善を加え、全国で一般化することを目指したい」と話していた。